

尺度使用マニュアル

<尺度名>

ジェンダー・アイデンティティ尺度

<測定概念>

性別に対するアイデンティティの強さを測定する尺度である。特に本尺度では、ジェンダー・アイデンティティを「斉一性・連続性をもった主観的な自分の性別が、まわりからみられている社会的な自分の性別と一致するという感覚」と定義している。これまでのジェンダー・アイデンティティ尺度と異なり、性別受容や性役割、性指向などを構成概念とせず、以下の4つの下位尺度から成る。①自己一貫的性同一性、②他者一致的性同一性、③展望的性同一性、④社会現実的性同一性。なお、この4因子は2因子ごとに高次因子を構成したため、①と②のまとまりを“一致一貫的性同一性”、③と④のまとまりを“現実展望的性同一性”とした。

<適用範囲>

青年期以降。

<尺度構成手続き>

谷(2004)の多次元自我同一性尺度(MEIS)を援用して尺度を作成した。

<信頼性>

各因子の内的整合性は、 $\alpha = .66 \sim .83$ 、2因子にまとめた場合、 $\alpha = .82 \sim .88$ である。再検査による信頼性は検討していない。

<妥当性>

“一致一貫的性同一性”とその低次因子については、性別受容2項目との相関で併存的妥当性を確認した。また、性同一性障害当事者との比較および自尊心との相関によって構成概念妥当性を確認した。

“現実展望的性同一性”とその低次因子については、性別受容項目、ステレオタイプな性役割への同調および性役割パーソナリティとの相関から併存的妥当性を確認した。また男女の得点差と自尊心との相関から構成概念妥当性を確認した。

数値に関しては出典文献を参照のこと。

<採点方法>

尺度の前にフェイス・シートを設け、性自認を「男性・女性・両性・どちらでもない」から選択させ、身体的性別(出生時に割り当てられた性別)を「男性・女性・間性(インターセックス)」

から選択させる必要がある。選択させたあと、性自認の性別の欄を回答するよう教示する。教示文は「前のページで性自認を女性と選んだ人はAの列、性自認を男性と選んだ人はBの列、性自認を両性またはどちらでもない性別と選んだ人はCの列の項目にそれぞれご回答ください。」である。その後、回答例を載せている。著者独自の質問紙フォーマットを用意しているので、連絡があれば対応する。

その後、「次の1～15までの項目について、現在のあなた自身に当てはまると思われる数字(1. 全くあてはまらない、2. ほとんどあてはまらない、3. どちらかというにあてはまらない、4. どちらともいえない、5. どちらかというにあてはまる、6. かなりあてはまる、7. 非常にあてはまる、のいずれか1つ)にそれぞれ○印をつけてください。16・17についても、当てはまるものに○印をつけてください」と教示をし、回答を求める。

尺度回答後、確認のため、「16、今までの質問項目は、ABCのうちどの列を回答していましたか。○をつけてください。17、あなたの身体的な性別(出生時に割り当てられた性別)は次のどれですか。○をつけてください。」と尋ね、どの欄の性自認を回答していたのかを明確にする。

逆転項目(項目1・4・7・9・11・12・13・14・15)は逆転させ、因子ごとに単純総計を出す。

<尺度の使用について>

項目の変更は認められない。また、本尺度は、4因子が2因子ごと高次因子のまとまりを構成しているので、2因子として使用することは可能である。

(出典文献)

佐々木掌子・尾崎幸謙(2007). ジェンダー・アイデンティティ尺度の作成, パーソナリティ研究, 15(3), 251-265.

<連絡先>

名前: 佐々木掌子

所属: 日本学術振興会・慶應義塾大学

メールアドレス: gender_identity_study@hotmail.com

<無料・有料の別>

無料。

<著作権関連情報>

転載は、著者の承諾を得てください。